



発行所  
**日本聖公会 東北教区**  
 仙台市青葉区国分町2-13-15  
 TEL 022-223-2349  
 FAX 022-223-2387  
 URL <https://nssk-tohoku.com/>

2日を過ぎ、週の初めの明け方早くになりました。安息日が明けるのを待ちかねて早々に、朝まだ早くに墓に向いて、せめて香料をお塗りしよう、せめて亡骸を目にし

ます。ご復活の主の祝福が皆様にありますように！  
 金曜日に十字架に掛けられて息を引き取られたイエス様は、アリマタヤ出身のヨセフとニコデモがユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料を添えて亜麻布で包んで、その日のうちに慌ただしく墓に葬られました。何故ならユダヤの安息日、つまり土曜日の前日であり、11人の弟子たちはユダヤ人を恐れ隠れてしまったからです。マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、一緒にいた他の女たちは、ご遺体に丁寧に接し、手厚く葬りの用意をしたかったけれども叶いませんでした。

イエスターおめでとうございます。ご復活の主の祝福が皆様にありますように！  
 金曜日に十字架に掛けられて息を引き取られたイエス様は、アリマタヤ出身のヨセフとニコデモがユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料を添えて亜麻布で包んで、その日のうちに慌ただしく墓に葬られました。何故ならユダヤの安息日、つまり土曜日の前日であり、11人の弟子たちはユダヤ人を恐れ隠れてしまったからです。マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、一緒にいた他の女たちは、ご遺体に丁寧に接し、手厚く葬りの用意をしたかったけれども叶いませんでした。

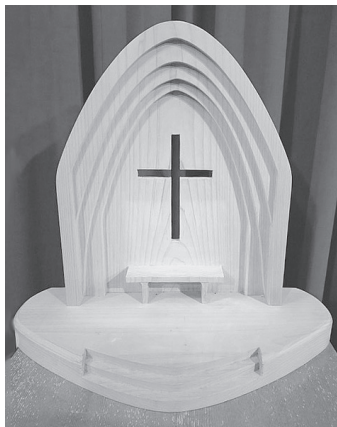
イースター メッセージ  
**「復活の朝」**  
 教区主教 フランシス 長谷川 清純

しになったことを思い出しなさい。人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになった、と言われたではないか。」

あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話し

て触り、お別れをしたいという気持ちでいっぱいでした。ところが、ご遺体を目にするのができない戸惑いと、打ちのめされた感じで途方に暮れました。

その時、神さまからのお声が聞こえてきました。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。」



大きな嘆きを経験しました。時間が空しく過ぎることも経験しました。今日まで、愛する人の魂の平安を祈ることしかできなくそれは、それは長い、長い時間を過ごしておられます。大震災後1ヵ月、2ヵ月、3ヵ月、半年、1年、そして14年が経ちました。

突然、何の前触れもなく身の身体が取り去られたのです。目の前から消されたのです。愛する人を失った方々は、深い、

14年前の東日本大震災巨大津波によって大勢の方々が流されて行方不明になりました。

セージであり、またイエス様の生前のお言葉です。彼女らはイエス様の言葉を思い出しました。人はそのお方が語られた数々の言葉を思い出します。その中でも一番強く深く残っている言葉があり、それが宝物です。

やがて被災者の中には、あの人を決して忘れないこと、世を去られた人のいのちを忘れないこと、そのいのちの分まで大事に生きること、それが遺された者がなすべきことだと考え、自分を納得させる方もおられます。山元町にある、震災で園児と職員を失ったふじ幼稚園園長先生はそう考えて、嘆きを生きる力に変え、回復して前を向いて園を再開し、保育を進めています。

復活とは「そこにとどまらない、そこに縛られない、キリスト・イエスの言葉を思い起こす」ことです。かつてイエス様が約束されたように、復活の主はあなたがたの現実生活の中に必ずや共にいてくださいます。ご復活の主は、いつも共にそして永遠にいてくださいます。「なぜ、生きておられる方を死者の中に探すのか。あの方はここにはおられない。復活なさったのだ。」

復活とは「そこにとどまらない、そこに縛られない、キリスト・イエスの言葉を思い起こす」ことです。かつてイエス様が約束されたように、復活の主はあなたがたの現実生活の中に必ずや共にいてくださいます。ご復活の主は、いつも共にそして永遠にいてくださいます。「なぜ、生きておられる方を死者の中に探すのか。あの方はここにはおられない。復活なさったのだ。」

主イエス様のみ言葉を胸に抱き、ここから歩み出して行きます。主にある皆さんとともに新しい朝、復活の朝に目覚めてまいりましょう。栄光に輝くイエスさまの光に照らされて、光を見つめながら導かれてまいります。

(東北教区主教)

# 第49回東北教区婦人会総会・

## 信徒研修会報告

「セーフチャーチにしよう！  
教会が全ての人にとって安心できる場所となるために」

東北教区婦人会 会長

ソフィア 赤坂 康子

2月22日(土)に第49回東北教区婦人会総会・研修会を仙台基督教会にて開催しました。11時から長谷川清純主教による司式で開会礼拝、参加者で心を合わせての聖歌が聖堂に響きました。

北海道教区笹森田鶴主教による説教では、1921年の婦人伝道補助会設立総会のこと、青葉静修館のこと等、婦人会の歴史に触れて、活動が危ぶまれている婦人会の現状に対して、迷いの中に在る時は「神の声を聞きましょう、真剣に求め祈ること、天には大きな報いがある。喜び踊るのです」と希望と励ましをいただきました。

研修会の終了後、第49回東北教区婦人会総会を開催し、関係者の方々にお集まりいただきました。書面議決での審

査の結果、2023、24年度の会計決算等は全て承認されたことの報告があり、その後、各教会婦人会並びに敬老基金運営委員会の方々に現状、今後についての考えをお聞きしました。各教会婦人会が継続困難な状況になり、教区役員会の次の引き受け手がないため、現役員で方向が定まるまで続けていくことを了承いただきました。



合併に向けて私たちも、名称を含め今までの婦人会を抜けて出して新しい方向を目指します。元婦人会員の皆様、またどなたでも「こんな会にしたら」とのご意見を募集中です。

仙台基督教会

エリザベス 松谷 演子

第49回東北教区婦人会総会の中で行われた信徒研修会「セーフチャーチにしよう！教会が全ての人にとって安心できる場所となるために」に参加しました。講師は第一部が「セーフチャーチってなに？」というタイトルで笹森田鶴主教がお話してくださいました。

教会という環境の中で虐待を経験した人々が存在し、人種、ジェンダー、性的指向、障がい、経済的弱者の人たちが暴力、虐待、社会的疎外などを受ける様々な状況が認められることを踏まえ、教会が全ての人にとって安心できる場所となるためにというのが「セーフチャーチ」の考え方です。この「セーフチャーチ」は2022年のランベス会議で策定されたものですが、そ

シヨンの報告をしてくださいました。

今私たちを取り巻く環境には様々なハラスメントが存在します。暴力や虐待、ジェンダーやLGBTQに対する差別など。それらは安全であるべき家庭や学校でも存在するのです。そして残念なことに教会においてもそれらのことは起こっています。教会は「神の家」、聖職や信徒は「神の家族」であると信じるあまり被害は隠蔽され、やっと発した声はかき消されてしまうのです。「他管区、他教区での出来事は個別の事柄や特殊な事件というだけでなく、教会や社会がもっている構造的な課題・体質などが要因となり二次加害に繋がっているのです」(信徒研修会資料より)

今回の研修会の副題にある「教会が全ての人にとって安心できる場所となるために」教会ができることは何なのか? 「多様性の一致」をうたう聖公会だからこそ、誰もが大切にされる共同体へと変わっていくことを私たち一人ひとりが考えなければいけないと思います。

### 東北教区保育連盟経営セミナー 今後のキリスト教保育施設の可能性

聖クリストフ幼稚園  
指導教諭 稲垣 裕美

2月24日(月・祝)東北教区主教会聖堂仙台基督教教会にて「日本聖公会東北教区保育連盟経営セミナー…今後のキリスト教保育施設の可能性」が開催され、教区内16の施設から40名近くの方々が参加されました。

九州教区の「久留米天使こども園」理事長兼園長である早川成先生のお話は、終始笑いのある和やかなものでしたが保育にかける情熱とこども園という組織を運営していくことの難しさ、それを乗り越えていく強い

信念を感じさせるものでした。「久留米天使こども園」は子ども主体の保育に力を注がれています。年長児は森に出かけて、のこぎりやナタを用いるようですが、最初こそ道具を取り合っているうちに誰かが切るときには誰かが

押さえるような役割分担が必ずと生まれ、どこを押さえれば切りやすいか自分たちでコツをつかむなど、教師が「教える」ということをしなくとも子ども自身が気付いて成長していくエピソードはとて感動し、「やったことではなく、何が育ったかが大事」という言葉は私自身とても考えさせられました。

一方でこども園に移行する際は大変なご苦労をされたとのこと、先生が各所に奔走された様子が目に浮かびました。

午後からは教区内の他園の先生方とキリスト教保育の良さ、難しさ、工夫、園の運営などを分かち合いました。どの園も環境こそ違えど先生方の子どもに対する愛情は皆深く、同じように悩みを抱えていることに安心感を覚え、互いに語り合い励ましたし、互いに語り合い励ましたし、合えるこうした仲間が与えられていたことを大変心強く感じました。

神さまの見守りの中でとても実りある時間を過ごさせていただいたことに感謝の思いでいっぱいです。

### 常置委員会報告 (第4回・2月12日)

#### 報告事項

▼常置委員長報告…セーフチャーチ・タスクチームと各教区の聖職養成に関わる部門責任者の合同オンライン会議を3月17日(月)に開催。  
協議事項

▼諸規程の改正について。主管・総務主事より「教役者聖職候補生後援会規程」の改正案が提出され、これを承認。また、「奉仕職養成グループ規程」については再度検討することを依頼。▼基本財産処分による残金の処理について(財政主事) ①旧新庄聖マルコ教会および新庄聖マルコ幼稚園地売却残金は宣教強化資金に繰り入れる。②旧主教邸跡地残金は小松島台原プロジェクト資金に一端入金し、用途・名称については今後検討。

#### 主教諮問事項

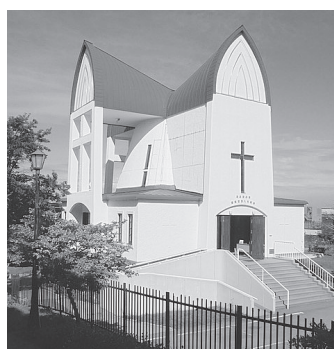
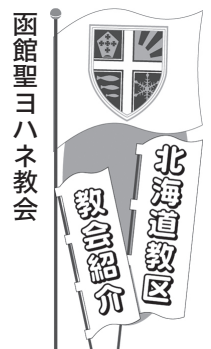
▼教役者人事について、適当である旨答申。▼2025年度幼稚園・こども園チャプレン派遣について、適当である旨答申。

### 東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

2月12日(水)の水曜喫茶は5名の参加で行われました。千葉県からの関係者に、差し入れとともにご参加いただきました。感謝です。

3月9日(日)に長く交流をしていただいた柳城学院の関係者の皆さん一行20数名をお迎えして磯山聖ヨハネ教会で懐かしい交流、その後「祈りの庭」に移動し、祈りを献げます。一行はその後、津波被害にあった「ふじ幼稚園」を慰問いたします。

3月11日(火)は東日本大震災14周年。祈りの時を迎えます。



1874年、CMS宣教師W・デニング司祭が函館で北海道伝道を開始して以来、歩みを重ねてきた教会。数度の大火で聖堂を焼失した後、5つ目となる現聖堂は1979年に落成。ドーム型の天井、四方に扉、尖塔は手を合わせる形に設計されています。庭の花々は季節を彩り、平日も内部見学ができ、聖堂コンサート等を通して多くの方々が来訪されます。  
ハリストス正教会、カトリック元町教会、教団函館教会にも隣接し、異国情緒溢れる道のりを、たくさんの人たちが楽しんでおられます。

# 洗礼・堅信

## 「きっかけ」

仙台基督教会

ルチア 遠藤 雪美

自身の30歳の誕生日を目前に控えた2月9日(日)に、洗礼・堅信式を仙台基督教会にて執り行っていたきました。この佳き日を迎えられることに、心より感謝いたします。

聖公会との出会いも、こんな雪の降る寒さの厳しい日のことでした。10年ほど前、当時盛岡の大学に通っていた際にたまたま盛岡聖公会の前を通り掛かり立ち寄ったことがきっかけです。

そこから長い紆余曲折を経て、この度入信する運びとなりました。



(右：遠藤さん 右から2人目：下館さん)

りました。

今回洗礼・堅信を受けるにあたり、何か明確な理由や大きな出来事があったわけではありません。ですが聖公会で祈り過ごす時間が、自分にとって知らず識らずにかけがえのないものになっていることに気付くと共に、自分がいまだクリスチャンではないという事実に強い違和感を覚えたことが、この一歩を踏み出すきっかけとなりました。

私にとって洗礼・堅信を受けるまでの道のりは、とても長く果てしないものですが、これをゴールとするのではなく、むしろ新たな人生の始まりとして受け止め、イエスキリストのお導きのもと力強く歩んでいきたいと考えています。皆さまこれからどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

## 「洗礼・堅信を終えて」

仙台基督教会

グレイシア 下館 幸子

夫が亡くなり娘の家族が住む仙台に引っ越して来て、早10年が経とうとしております。当初は慣れない土地で、淋し

さと心細さが募り、これからどうしていったら良いのかと、色々考えたり模索する毎日が続きました。

そのような中で、以前からキリスト教に関心を持っていったこともあり、娘の家族が通う教会に行くようになりました。初めの頃は、毎週日曜日の礼拝で聖堂に入る時も礼拝中も、お客様のような感じでなかなか落ち着けなかったことを思い出します。

しかし、信徒の皆さんが友だちのように接してくださる教会が安心できる場所になっていく中で、「人生の中で区切りをつけたい」「新しく生まれ変わりたい」と思うようになっていきました。

不安もたくさんありましたが、穏やかな日和の2025年2月9日、洗礼堅信を受けることができました。長谷川清純主教様、八木正言司祭様をはじめ、教父母、信徒の皆様、心から感謝申し上げます。

さらにこの日、私の曾孫ともうお一方3人で一緒に受洗できたことも含め、全てが感動の一日でした。

これから教会の信徒として自分のできることを、前向きに考えながら楽しい教会生活を送っていききたいと思っております。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

## 「世界線」

盛岡聖公会

ラザロ 井上 聡

私は、国の農業試験場に勤めており、全国を転動しています。4年前に札幌から盛岡に転勤し、近所の盛岡聖公会に行くことにしました。昨年、所属する合唱サークルで教会コンサートを検討することになり、盛岡聖公会との調整関係には会員が都合良いだろうと、日本福音ルーテル札幌教会からの転籍を申し入れました。

ルーテルで洗礼も堅信もしていました。主教授手が必要とのこと、改めて堅信式をすることになりました。50歳を過ぎて成人式をするような不思議な感覚でした。教名も必要とのこと、ヨハネ11章よりラザロとしました。

さて、最近『世界線』という言葉を耳にします。ある出



来事によってその後の物語が大きく分岐していく様子を意味します。盛岡転勤、盛岡聖公会との出会い、(結局実現しませんでした)教会コンサートという世界線に従って、札幌では想像もなかった現在に辿り着きました。大切なのは、盛岡聖公会という教会の交わりに加えていただき、信仰の機会が与えられたということ。人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安(口語訳ペリピ4:7)という言葉を思い出します。いつか盛岡を離れてどこに行くのか、ルーテルに戻るのかなど、今はわかりません。しかし、どんな世界線であっても、その歩みの中に神の平安が与えられていることを信じています。



「私と教会」

青森聖アンデレ教会  
アンナ三浦 舞里



私と教会のつながりは、まさに神様に導かれたように

始まりました。

私は福島県郡山市の出身で、結婚して青森にきました。幼い頃は郡山のカトリックの幼稚園に通い、その時に教会で「十字架の道行」の絵を見て怖さを感じてしまい、教会や聖書は怖いものと思ひ込み、聖書を聞くことが出来なくなりました。

でも、振り返ると、父が建てた家の前には郡山聖ペテロ聖パウロ教会があり、結婚後住んだ青森のマンションの裏には青森聖アンデレ教会があるなど、行く先々にはいつも教会が身近にありました。そして二人の子どもたちを聖マリア幼稚園に通わせることになり、今までの経験したこと

を福田優美子園長先生に話しました。すると、「お母さんが教会や神様に守られているからですよ」と言われ、我にかえった気がしました。

信徒への手紙(10章13節)、必ず試練はのり越えられるものだと記されているのを見て、それを心の支えにしてみました。そして、主教様や司祭様方、信徒のみな様、家族が、いつも寄り添ってくださり、信仰と共に前を向いて生活しております。

あれから10年が経ち、私の人生の中でいろいろなことがあり、悩むこともたくさんありました。その度に、聖書の中の「あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず」(コリントの

教会では礼拝前のご奉仕のオルターやアツシャー、トーチなどができるようになり、自然と私の生活の一部になりました。これからも感謝の気持ち忘れず、信仰生活を続けていきたいと思ひます。

公 示

救主降生2025年2月12日  
日本聖公会東北教区主教  
主教 フランシス 長谷川清純 ㊦

下記の人事異動を発令します。

- 主教 フランシス 長谷川 清純  
2025年3月18日付 弘前昇天教会管理牧師および青森聖アンデレ教会管理牧師、松丘聖ミカエル教会管理牧師の任を解く。
- 司祭 ドミニコ 李 贊熙  
2025年3月19日付 願いにより復職を許可する。  
2025年3月19日付 弘前昇天教会牧師、青森聖アンデレ教会管理牧師および松丘聖ミカエル教会管理牧師に任命する。
- 主教 ヨハネ 佐藤 忠男  
2025年4月1日付 司祭 ドミニコ 李 贊熙のもとで弘前昇天教会において礼拝協力を委嘱する。ただし、法規第53条第2項を準用し、任期を1年間とする。
- 主教 ヨハネ 加藤 博道  
2025年4月1日付 主教 フランシス 長谷川清純のもとで、仙台聖フランシス教会において礼拝協力を委嘱する。司祭 ヨハネ 八木正言のもとで、仙台聖公会において礼拝協力を委嘱する。ただし、法規第53条第2項を準用し、任期をいづれも1年間とする。



1月、2月も管理教会がある青森と弘前を往復しましたが、今年の大雪にはひどく影響を受け、悩まされま

に到着。20日帰路、運転再開で電車に乗るも北常盤駅でポイントを切替できず約2時間停車。代行バスで新青森駅へ。3時間遅れで帰宅。  
足止めを食らった時、目的地に辿り着くのに頭を柔軟にします。計画や予定に縛られず、変更を躊躇しない、それが打開の秘訣かと貴重な体験を積みました。ライオンホールド・ニーバーの祈り「変えられるものを変える勇氣」が少し解りました、感謝です。

した。奥羽本線運転見合わせが何度もあつて、1月4日は八戸の聖餐式後弘前に行くために駅に向かうと、無理とのこと。思案していると仙台行新幹線にキャンセルが出たというので、予定を変更し弘前は諦めました。信徒もこの大雪では交通も安全も脅かされると教会委員で相談の上、礼拝を休止としました。

有我忠幸聖職候補生が聖公会神学院の「特任聖職・特別オンライン講座」1年間の受講を終了しました。次のステップに進みます。4月からは国分敬子さん(郡山)と白鳥五大さん(青森)の二人が「信徒の奉仕・召命コースオンライン講座」を受講します。諸経費は研学資金で援助します。二人とも信徒奉事者です。東北教区の信徒奉事者47人は日本聖公会で3番目に多い人数。信徒の奉仕の働きの広がりをお願い中、今まさにチームミニストリーを推進しようとしている我が東北教区に弾みが付くと、私はとても喜んで

から新幹線で帰宅。  
2月19日、前日チーム北国会議の札幌から青森空港への飛行が怪しく、急遽札幌から新函館北斗を経由し新幹線で青森へ。翌日、奥羽本線運転見合わせで鉄道では弘前に行けず。スマホ検索して新ルートを発見、青森空港経由でリムジンバスを乗り継いで弘前

います。  
(教区主教)



### 大館聖パウロ教会

今年は降雪量の多い冬でした。空き地に高く積まれていた残雪もだいぶ少なくなり、春の訪れを感じられる様になりました。

1月、元気に過ごされていた信徒の方が、入浴中に体調を崩し突然亡くなりました。永い間教会活動に携わっておられた方でしたので、とても悲しい出来事でした。天国での平安をお祈りいたします。

また、当教会の最高齢の方が自宅で転倒し、施設と自宅での療養生活をしております。毎週教会に来られることが一番の楽しみと常々話しておりましただけに、心が痛みます。時には司祭様と一緒に自宅を訪問し、聖餐、お祈り、聖歌を歌い、心豊かな時間を共有しております。

昨年は近隣の能代キリスト教会の宣教記念事業として行われたコンサートに当教会か

らも参加し、交流を深めることが出来ました。今年は定期的に訪問出来ればと考えております。

少人数の大館聖パウロ教会ですが、皆で前向きに活動しております。

### 郡山聖ペテロ聖パウロ教会

#### 卒園生の活躍

セントポール幼稚園の卒園生が快挙です！

今年の芥川賞に卒園生の鈴木結生さんが選ばれました。鈴木さんは2007年卒園、現在は西南学院大学の大学院生(福岡在住)で、まさに新進気鋭の作家です。

今回の快挙については、幼稚園はもちろんのこと、教会メンバー一同共に喜びを分かち合いました。当時の卒園集合写真を見ると、聖堂の中で「やんちゃ」に笑っている幼い姿がありました。卒園文集では、宝物は「かみさま」と書かれていて、受賞インタビューでも文学の原点は「聖書です」とコメントされていました。嬉しい限りです。来郡される際には、懐かしの教会にも訪ねていただけるのではと願っ

ております。園では祝福の横断幕を作成し、入り口に掲げました。その前で園児全員の集合写真を撮り、お祝いメッセージをご本人にお送りしました。

受賞小説のタイトルは「ゲートはすべてを言った」です。ベストセラー1位とのこと。皆様も是非とも手に取って読んでいただければと思います。

### 洗礼おめでとう

アルフレッド 赤坂 奏杜

ルチア 遠藤 雪美

グレーシア 下館 幸子

(2月9日・仙台)

### 初詣おめでとう

アルフレッド 赤坂 奏杜

(2月9日・仙台)

### 堅信おめでとう

ラザロ 井上 聡

(1月12日・盛岡)

ルチア 遠藤 雪美

(2月9日・仙台)

### 永遠の平安

ペテロ 阿部 禧典

(1月9日・盛岡)

ヨハネ 八柳 祐一  
(1月25日・山形)

ヨハンナ 横田 隆子  
(1月27日・仙台)

マリヤ 後藤 喜和子  
(2月26日・大館)

### 4月逝去者記念聖餐式

4月2日(水) 午前10時

於 主教座聖堂

司式・説教 長谷川清純 主教

司祭 ヨハネ 落合 吉之助  
1942年4月1日逝去

司祭 稲垣 陽一郎  
1949年4月1日逝去

宣教師 Miss Gladys V. Gray  
1978年4月2日逝去

主教 John McKim  
1936年4月4日逝去

司祭 田井 正一  
1927年4月6日逝去

司祭 ヨシユア 大野 敏之  
1971年4月8日逝去

司祭 松田 輝三雄  
1977年4月10日逝去

伝道師 織間 小太郎  
1934年4月15日逝去

宣教師 Miss George Sutton  
1941年4月15日逝去

司祭 イスラエル ユブ 加藤 泰治  
1970年4月16日逝去

執事 北沢 繁松  
1934年4月21日逝去

司祭 森 澁  
1934年4月22日逝去

司祭 早川 喜四郎  
1943年4月23日逝去

伝道師 マリア マンテン 神崎 ゆき  
2007年4月23日逝去

執事 Dorothea V. Carlson  
1928年4月27日逝去

司祭 小林 彦五郎  
1944年4月29日逝去

司祭 Robert W. Andrews  
1962年4月29日逝去

伝道師 マリア 鈴木 八重  
1991年4月29日逝去

宣教師 Mrs. Lora Gladys Clifford  
1929年4月30日逝去

司祭 John Gage Waller  
1943年4月30日逝去

### ヴァイアル山荘関連

### ヴァイアルクラブ会員募集

2025年度の会員を募集しています。

個人：2,000円 団体：20,000円

お申し込みは教区事務所まで



### 2025年開所式

4月26日(土) 13時～  
ぜひご参加ください。